



小野里 公成「一九五七」

東京都に生まれた。写真家。デザイナー。

著書に『花火百華』『日本の花火』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。

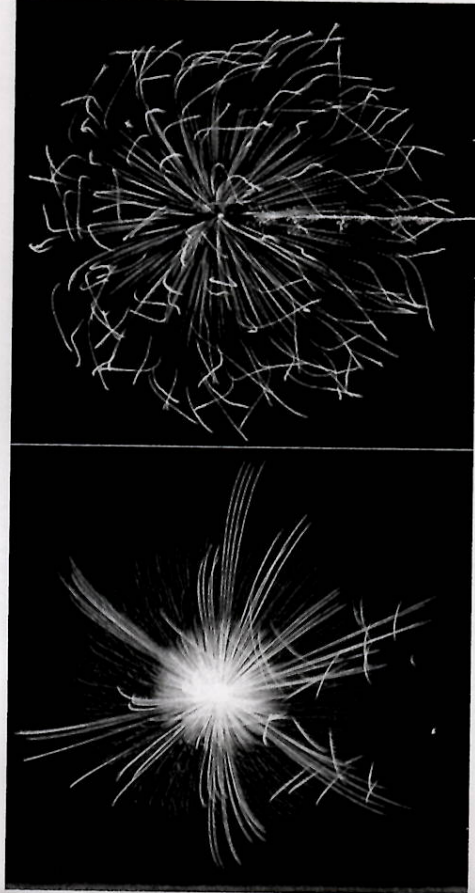
こうして、熟練された花火師によって作られる日本の花火は、世界に誇るこ
でできる水準となっている。だが、誰もがその仕組みや価値を確認するため、花火
を見ているわけではないだろう。花火は、大きな音とともに華やかに夜空に咲き、
その直後には跡形もなく消えてなくなってしまう。その印象が、心の中にのみ残る
ので、人々は何度も見たいと思うのだろう。その一瞬の成果の背後には、花火師た
ちの高い技術が隠されている。古来より、情緒、風情といった感覚をよく理解し、
求める日本人にとって、華やかさとはかなさを同時に味わえる花火は、実に琴線
にふれる、味わいに富んだ芸術なのだと思う。

これが日本人にとってとても
重要なこと！
「はかなさ」も同時に味わう！

結論

新しい日本の花火について

現在の花火大会では、一発のできばえはもちろんのこと、それを連続して打ち上げる時の組み合
わせやリズムといった演出面も、観客を楽しませ
るという観点から重要となっている。さらに、追
い求めてきた丸く開く花火だけでなく、その技術
をもとに、さまざまな形やこれまでにない動きを
する花火も生み出され続けている。



星の配置や動きを工夫した新しい花火の例

誇

琴

- 1 意 熟練
- 6 意 情緒
- 6 意 風情

- 4 意 余韻
- 6 意 はかない
- 8 同 完結

華 韻

5 10 15